

世界と戦う若き経営者の挑戦

医療消耗品業界に革新を起こし グローバル企業への飛躍を誓う

病院などで使われるマスクやガーゼといった医療消耗品は革新的な技術が生まれにくく、保守的な業界とみられている。しかし中には、朝日衛生材料株式会社の代表に29歳(当時)の若さで就任した吉田也真登社長のように、業界に新風を起こすべく様々な取り組みに挑戦する新進気鋭の経営者もいる。

大阪府東部に位置する柏原市。藤井寺市・羽曳野市に隣接するこの辺りは非常に野球熱の高い地域として知られている。

「少年時代は大リーグでプレーする選手とも同じリーグで戦っていましたよ」と笑顔で切り出す吉田社長。同社には福利厚生

の一環として設立された野球チ

ームがある。強豪約100チー

ムが集う大阪薬業健康保険組

合野球大会において毎年上位に

食い込む活躍をみせるアルスタ

ーズだ。実は経験者が少なく

「勢いとチームワークだけ」で

奇跡を起こしているというから

面白い。しかしこれは野球に限

った話ではなく、こうした「風

通しの良さ」こそが同社最大の

強みではないかと感じている。

オーストラリアの高校に留学

し、帰国後は関西学院大学に進

学、学業修了後は祖父が経営す

る同社に就職。その後、慶応大

学大学院進学、ユネスコ協合理

事と渡り歩き、2012年に再

入社した吉田社長。高校生の時

社長から見た同社の印象は「旧態依然の業界そのものの雰囲気」だったという。

改革の必要性を痛切に感じていたものの、自分と関係のないところで巻き起こった親族のいざこざが原因とはいえ、半年で退職した自分の言うことを聞いてくれるのか？不安がよぎる。

**整理整頓で心の清掃
意識が変わると行動が変わる**

それでも「やるしかない」と腹を括った吉田社長は、コンテナの積み下ろしや荷物の仕分け作業を率先して行い、工場でパート社員と一緒に汗を流したりした。現場の苦勞を知らないリーダーの言葉には説得力がないからだ。同時にオフィスでは徹底的にモノを捨てさせ、社内的大部分をリフォームした。医療衛生材料を扱う会社なのに清潔感がないのは信用に関わる。そして社内が片付いていき様変わりするにつれ社員達の心も綺麗に掃除されていったという。

不思議なものである。こうなると、今までのやり方ではないのか？と自問自答し、より良い方向に変えていこうとする社員が次々に出てくるのだ。

「私が目指す改革はまだまだ道



軟式・草野球チーム「アルスターズ」

半ばです。そこで、些細なことでも相談に乗れるよう毎週水曜日に社長室を開放する『オープンアワー』、全従業員を対象に年3回行う『個別面談』、会社の現状認識やビジョンの共有を目的とした『決算報告会』、週に一度の『外国語学習会』など、新しい取り組みにも着手していきます。もちろん『飲みニケーション』もやっていますよ(笑)。

今後は日本全国への展開はもちろんのこと、東南アジアへも安全で高機能な医療衛生材料を届けたいという吉田社長。

実は同社は「アルスパットン」という日本屈指の立体型使い捨て生理用品を開発・発売した知人ぞ知る老舗メーカーである。この若きリーダーのもと、「アルスパットン」に匹敵する画期的な商品を生みだし世界に向けて発信されるのは、そう遠くない未来なのかもしれない。



朝日衛生材料株式会社代表取締役

吉田也真登